

会長挨拶

第 36 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会

会長 綿田 裕孝

(順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学)

第 36 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を 2023 年 2 月 17 日(金)、2 月 18 日(土)の 2 日間、東京の一橋大学一橋講堂における現地開催及び ZOOM を用いた WEB 開催併催のハイブリッド形式で開催させていただきます。35 年余りの伝統を有する本学会の年次学術集会を開催させていただけることを大変光栄に存じます。

36 回を数える伝統ある本学会の学術集会ですが、本学会が日本糖尿病学会の分科会となつてはじめての開催となります。また、参加者を増やすという試みから、あえて、日本糖尿病学会が主催する「糖尿病学の進歩」と同時開催することとなりました。

今回の学術集会の行事としては、世界においてオートファジー研究をリードされている東京大学の水島昇教授に特別講演を行っていただきます。また、本学会は、これまで、我が国で樹立されてきた糖尿病・肥満マウス・ラットを用いた糖尿病・肥満の成因・病態生理に関する研究を数多く発信してまいりました。そこで、今一度、これらの動物に関して知識を整理するために、本学会では NOD マウスを取り上げ、プレナリーレクチャー II は「糖尿病学、免疫学からみた NOD マウス」として、NOD マウスの樹立の経緯や特徴に関して近畿大学の池上博司先生と東京大学の岡崎拓先生からご講演いただくことになっています。

研究を効率よく進めるためには共同研究が重要となります。国内唯一の内分泌代謝学に関する基礎医学研究所である群馬大学生体調節研究所はそのための重要な拠点であると考えられます。そこで「あなたはまだセイチョウケンを知らない」と題したシンポジウムを企画し、生体調節研究所の紹介をしていただくことを企画しております。さらに、動物実験の際に必要なになってくる技術が数多くありますが、それに関して、「多面的な in vivo 解析の最前線」と題したプレナリーレクチャー I も企画しております。

比較的小規模の学会が、臨床医学研究者、基礎医学研究者、製薬会社関係者など、異なるバックグラウンドを持つ方が参加し、顔が見える交流ができる貴重な場と考えます。また、若手研究者とともに、これから研究をやってみようか迷われている方にも糖尿病肥満研究の面白みをわかってもらえる会になればと思っております。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。